

みんなのまちづくりゲーム 説明台本

スライド	説明
ゲーム開始前	
1	これから、みんなのまちづくりゲームを初めます。ゲームの前に、少し考えてもらいたいと思います。私たちの未来は、今のままいくと、どうなるでしょうか？ (いくつか意見を出してもらおう)
2	例えば2050年、私たちの未来はこのようになっています。この未来は、あくまでもこのままのスタイルで時代が進んでいった場合のものです。今生きている私たちの選択によって、未来は変えられるかもしれません。
3	それでは、わたしたちの選択によって、未来がどのように変わるのか、ゲームでシミュレーションしてみましょう。
4	皆さんは、あるまちの住民です。1チーム5人で1つのまちをシミュレーションしてもらいます。まちは都市との関係の中で成り立っています。都市は消費の中心地であり、政府など様々な機関があります。都市は、人生ゲームで言う「銀行」のような役割ですので、ゲームには参加しません。
	それでは、ゲームの流れを説明します。
	このゲームは、住民同士で勝敗を争うものではありません。皆さんは住民同士話し合い、力をあわせてまちを運営してください。5年間で一番お金を残せたまちが優勝です。5年経つ前に人口がゼロになったり、ゴミがゴミ置き場から溢れてしまうと、ゲームオーバーとなります。
5	まず、それぞれのチームでまちの名前を決めてください。次に、5人がそれぞれ、森、里、海、街、役場のどのキャラクターを担当するか決めてください。森は林業者、里は農家、街は商工業者、海は漁師、役場はそのまちの役場職員です。皆さんは、これからそのキャラクターになりきってもらいます。(各チームでまちの名前と、担当を決めてもらう)
6	それぞれの担当が決まったら、表のように、最初の所持金を配ってください。ちなみに、この世界ではお金の単位は「s」(=サステナブル)です。また、アイデアカードとハプニングカードはよくきってボードの上においておきましょう。 (各チームで紙幣を配布し、カードをセットしてもらおう)
	次に、ボードを見てください。ブランド力メーターにコインを配置します。森里海はそれぞれのブランド力を表します。交流人口、定住人口は、1マス1000人を表します。人口は7000人からスタートです。 (各グループでコインを配置してもらおう)

みんなのまちづくりゲーム 説明台本

	<p>ボードのルーレットに注目してください。1～8に書かれていることをすべて行くと、1年が終了します。5年目のハプニングカードをひいて指示に従ったところで、ゲームは終了です。今何年目か忘れないように、1年目のマスにコインをおいておきましょう。（各グループでコインを配置してもらう）</p>
<p>1年目を参加者全員でチュートリアルする</p>	
	<p>それでは、1年目を一緒にプレイしてみましょう。まず、エネルギー供給を行います。森・里・街・海のプレイヤーは、何かアクションを実行するにはエネルギーが必要になります。各ターンで、最大2つのアクションを実行できますので、ここで最大2個のエネルギーを購入してください。都市にエネルギー1個あたり300sを支払います。今は、エネルギーは都市からしか買うことができませんが、ゲームが進むにつれて、町内で買えるようになることもあります。（森・里・街・海のプレイヤーはエネルギーを購入する）</p>
	<p>次に、森・里・街・海のターンです。それぞれのプレイヤーポップを見てください。例えば森であれば、「建材の販売」と「森林の整備」という2つのアクションがあります。このうちのどちらか、もしくは両方を実行することができます。どちらも実行しないことも可能です。</p> <p>では、「建材の販売」を実行するとします。都市から1000sを受け取ります。すると、さっき購入したエネルギーを1個消費し、代わりにゴミが出ます。エネルギーチップを裏返して、ボード上の「ゴミ置き場」においてください。また、売上の1割を役場に税金として納めなければならないので、100sを役場に渡します。</p> <p>次に、「森林の整備」を実行するとしましょう。これは、森林の整備を都市または里・海・街のうちの誰かにお願いすることになります。ここでは仮に、海にお願いするとしましょう。1200sを海に渡します。先ほどと同じく、エネルギーを1個消費して、ゴミを廃棄します。</p> <p>これで、森のターンが終わりです。里、街、海も同じ要領で進めてください。</p> <p>（森・里・街・海のプレイヤーは各ターンを実行する）</p>

みんなのまちづくりゲーム 説明台本

	<p>次に、役場のターンです。役場は、4つのアクションを順番に全て行います。まず、人口調査を行います。定住人口が1000人減ります。「定住人口」のコインをひとつ下げます。次に、税金を徴収します。森・里・街・海から100sずつ受け取ります。続いて、交付金を受け取ります。これは、定住人口×100sです。皆さんは、今定住人口6のところにコインがあると思います。6×100sで600sを都市から受け取ります。最後に、ゴミを処理します。いま、ゴミ置き場にゴミのチップが溜まっていますね。これを、1個につき50sを都市に支払って処理することができます。今の段階で、全部処理してしまっても、何個かだけ処理してもOKです。ゴミがゴミ置き場から溢れるとゲームオーバーになります。ここまでやってみてください。（役場のプレイヤーは4つのアクションを実行する）</p>
	<p>次に、議会の開催です。議会は新しいアイデアを得たり、アイデアを実行するかどうかを決定するために必要です。開催する場合は、役場が3000sを都市に支払い、アイデアカードを3枚ひくことができます。開催しない場合には定住人口が1000人減ります。開催するかどうか、チームで話し合っ決めてみましょう。開催すると決めたところは、アイデアカードを3枚引いて、内容を確認してください。（各チーム、議会を開催するかどうか話し合っ決めて。アイデアカードをひいて内容を確認する）</p>
	<p>さて、アイデアカードには何が書いてありましたか？成立条件が記されているものは、今は実行できない場合もあると思います。その場合は、また別の議会の際に実行することができますので、カードボードにおいてストックしておきましょう。何か発電施設系のカードが出たチームはありましたか？その場合は、まず誰が運営するか決めましょう。運営者は、都市に建設費を支払います。複数のプレイヤーでお金を出し合っってもOKです。建設したら、プレイヤーポップにカードをセットしましょう。例えば、エネルギー生産量が年5個で価格が150sとなっている場合、次回のエネルギー供給の際には、都市に300s支払う代わりに、運営者に150s支払ってエネルギーを得ることができます。施設の運営者は、自分でエネルギーを生産できるので、買わなくてもよくなります。ただし、年間の生産量には限りがあるので注意しましょう。また、施設によっては、他のプレイヤーからゴミを引き受けてエネルギーに変えられるものもあります。その場合は、プレイヤーがゴミを捨てるタイミングで行います。</p> <p>それでは、どのアイデアを実行するか、チームで話し合っ実行してください。（各チーム、話し合っアイデアを実行する）</p>
	<p>最後に、ハプニングカードをひきます。誰がひいてもかまいません。チームで協力して乗り越えてください。ひいたカードは、カードボードにおいておきましょう。（各チーム、ハプニングカードをひく）</p>

みんなのまちづくりゲーム 説明台本

	<p>ハプニングカードはどうでしたか？ゲームを進めていてお金が無くなった場合には、都市からお金を借りることができます。「借入証書」に、名前と借りた金額を書いて、持っておきます。これは、ゲーム終了時に1割増しで清算します。それでは、5年目までプレイしてみましょう。（5年目までプレイする）</p>
<p>5年間プレイ終了後</p>	
	<p>5年目のハプニングカードまで終わったチームは、結果集計シートにそれぞれの所持金やブランド力を記入してください。集計が終わったところは、前のホワイトボードに記入しに来てください。（各チームで集計し、ホワイトボードに記入する）</p>
	<p>それでは、結果発表です。一番所持金が多かったまちは、〇〇です！おめでとうございます！</p>
	<p>さて、5年間のまちづくりの結果はどうだったでしょうか。各チームで話し合ってみましょう。（10分間チームで話し合い、出た意見をまとめて代表者が発表する）</p>
	<p>では、あなたが実際に生まれ変わるとしたら、どのまちに住みたいと思いますか？手をあげて投票してください。（自分が住みたいと思うまちに手をあげてもらう。何人かに理由を発表してもらう）</p>
	<p>（ファシリテーターが所感を述べてまとめとする）</p> <p>例）このゲームでは、最終的にどれだけまちにお金が残せたかで勝敗が決まりました。でも、実際に住んでみたいまちとは違いましたね。お金は豊かさの一つのものさしではありますが、まちづくりを考えると別のものさしがあるということにも気づけたのではないのでしょうか。</p>